

◆東北大教育学研究科◆

アジア共同学位開発プロジェクト・サマーコース

各外国大学からサマーコースに参加した学生と講師



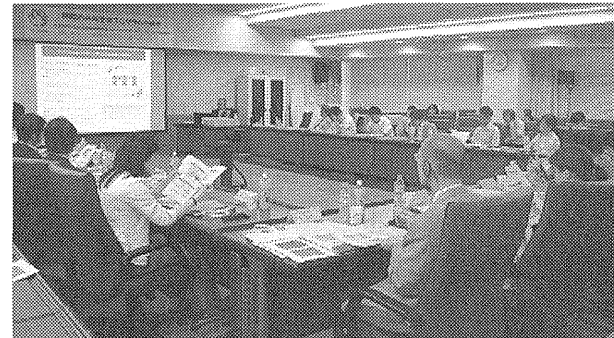
東北大学大学院教育学研究科では、平成24年度概算要求特別経費により実施している「アジア共同学位開発プロジェクト」の一環として、アジア共同学位開発プロジェクト・サマーコースを8月22日から8月29日までの8日間にわたり東北大学文科系総合研究棟を会場に開催した。

今回初めての試みであるサマーコースでは、東北大学の大学院生のほかに、中国、韓国、台湾から11名の大学院生が参加し「アジアの子ども」「アジアの学校」をテーマとした2つの講義を短期集中で受講した。各講義も中国、韓国、台湾、日本の教員が担当し、それぞれの国の教育が抱える問題と最新の改革動向などについてグループディスカッションを通し活発な議論が行なわれ、最終日には「アジアにおける共通の教育」をテーマにグループごとに発表し、アジア共通の課題や各国の差異について様々な観点から意見が交わされた。また、サマーコース期間中には日本の中学校・高等学校においてフィールドワークを行ない、外国人の目を通して、日本の教育現場を改めて見ることで、これまで気づけなかった日本の教育の良さ、あるいは学校現場が持つ課題の共通性について理解を深めた。

Ⅱ東北大教育学研究科Ⅱ
アジア共同学位開発プロジェクト国際シンポジウム

東北大学大学院教育学研究科では、平成24年度概算要求特別経費により実施している「アジア共同学位開発プロジェクト」の一環として、アジア共同学位開発プロジェクト国際シンポジウムを9月19日に東北大学文科系

総合研究棟を会場に開催した。平成24年度の1回目となる今回のシンポジウムでは、「国際的共同学位の構想―国際化時代に対応した人材育成」と題して、東アジアの高等教育機関で教鞭をとる11人の講師を招き、国際化時代に対応した人材育成の在り方について討論を行なった。

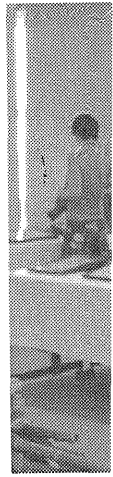


会場の様子



各外国大学の講師と東北大学関係者

シンポジウムは、本郷一夫教育学研究科長の挨拶に続き、ヨーロッパ高等教育研究の第一人者であるウルリッヒ・タイヒラー教授より高等教育における流動性についてヨーロッパの経験を通しての基調講演があった。その後各大学から国際化時代に対応した人材育成についての取り組みについて報告があり、フロアを交えて活発な討論を行なった。



病院の患者さんら約550名が訪れ、心温まる文章と絵のコラボに癒された。